

---

# Happy Birthday

玲風

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Happy Birthday

### 【Nコード】

N9502A

### 【作者名】

玲風

### 【あらすじ】

誕生日がキライ。誰も祝ってくれないから。深夜のコンビに出会った奏汰。ノリで付き合うことに。他人は嫌いだけど彼なら好きになれるかも。

## （前書き）

いつもと違った感じで書いてみました。感想など頂けると光栄です。

青唯、誕生日おめでとう

久しく言われてない言葉。少なくとも10年は言われてない。10年前に親が離婚した。あたしが6歳の時。父も母もあたしのことを「いらない」って。小学生のあたしは親戚の所に居候した。そこでは叔母さんや従姉妹にいじめられ、小学校でも友達がいなかった。多分従姉妹の奴らが何か言っただろう。中学は行かなかった。年をこまかしてバイトし、金を貯めて、家を出た。叔母さんたちは何も言わなかった。

独り暮らし。めちゃくちゃ楽しかった。バイトは大変だったけど、あいつらがいないから平気だった。

誕生日なんか忘れた。そう、言い聞かせていると本当に忘れてしまった。誰も祝ってはくれない誕生日。ううん、祝って欲しくなんかない。みんな、大嫌い。あたし以外の人間はキライ。

「こんにちは、バイトちゃん。」

深夜、コンビニのバイトをしていると、にこやかな青年が話し掛けてきた。年は18、9歳。この人はよくここに来る人だ。

「はい？」

一応返事しておく。なんたって大切な「お客様」。この男は優しく接すると付け上がってとんでもないことを口にした。

「俺、新条奏汰。俺と付き合ってよ。初めて見かけたときからスキだったんだ。」

シンジヨウカナタ。名前が耳にこびりつく。何故？いやいやそれよりもあたしと付き合いたいとかどうかしてるだろう。彼の顔をチラリと横目で見ると無邪気な笑みを浮かべていた。ニコニコニコニコ……うっとうしい笑顔。

「何いってんの？バカじゃないの？」

それでもシンジヨウカナタはニコニコニコ。あゝもう！うつと  
うしい。・あたしはこういう能天気な奴が嫌い。ム力つく。半分は  
妬みだけだね。悩みが無さそうな奴。あたしとは正反対。

「確かにアタマは悪いけど、バカじゃないよ。君はとっても素敵！  
いつつも一生懸命働いてるし、お客様への対応もいいし。」

素敵とか面と向かって言う奴なんて初めて見た。ニコニコの青年。  
いや、少年？変な奴。

「あはっ、マジでバカじゃん。素敵って何よ？意味わかんない！」  
あたしは気付いたら大声で笑ってた。深夜だったから客はそんなに  
いない。良かった。こんなに笑ったのは久しぶりだった。新条奏汰  
はそれでもニコニコしている。こいつと付き合ったら、退屈しない  
かなあ？

「はは、あんたといったら退屈しないよね。決めた。あたし、あんた  
と付き合うよ。楽しそうだよ。あたしは神田青唯。よろしく。」

ノリで付き合うのは失礼かと思っただけど、暗い生活から抜け出した  
かった。他人はキライだけど、コイツなら好きになれるかもしれない。  
い。

「アオイ…ちゃん。かわいい名前。」

ニコニコ…

かわいいだって。かわいいのはそっちだよ。

「アオイは誕生日いつ？お祝いするよ。」

今日もニコニコ。あれから一ヶ月が過ぎた。今日は二回目のデート。  
話題が誕生日となった。奏汰の誕生日は7月7日。七夕の日。あた  
しは？

答えられない。覚えてないもん。

「覚えてない。」

不審に思ったかも知れない。引いちゃったかも。でも、奏汰はあた  
しの心配を破った。

「そうなの？じゃあ、10月1日。『あ』が一番初めだから『1』、  
『お』が『0』、『い』が『1』。」  
そう言つて勝手にあたしの誕生日を決めた。やっぱり、能天気。で  
も、退屈しない。ということとはあたしの誕生日が一カ月後となるわ  
けだ。奏汰なら祝ってくれる。  
「アリガト。」

一ヵ月後

今日は奏汰は外せない用事があるらしい。おばあちゃんの命日だそうだ。同じ日になるなんて。奏汰のことだから、何も考えて無かつたんだろ。うな。夜には逢いに来てくれる。

pull...pull

けたたましく電話の音が鳴り響く。

「はい？…え？」

あたしは全身の力が抜けていくのを感じた。「奏汰が…事故に遭って…」

電話の声は奏汰の母親。事故に遭って……即死。

「嘘。奏汰。お祝いしてくれるって言ったのに。まだ、付き合つて二ヶ月だよ？あたしはまだ、奏汰の誕生日祝つてないよ。奏汰！ねえ、奏汰！！」

何度も何度も叫んだ。涙が止まらない。

あたしはいつのまにか疲れて眠っていた。

そんな中聞こえる声。

Happy Birthday

それはきつと奏汰の声。

（後書き）

めちゃくちゃ予想できる話ですいません。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9502a/>

---

Happy Birthday

2010年12月18日02時49分発行